

## 第 1 回 香川県産業成長戦略に関する懇談会議事録（要旨）

開催日時 平成 29 年 7 月 18 日（火）13:45～15:30

開催場所 県庁本館 21 階特別会議室

出席委員 井原委員、大津委員、久保田委員、竹内委員、竹崎委員、長濱委員、原委員、  
平井委員、正木委員、三矢委員、八尾委員、山本委員

### 1 会長の選任について

香川県産業成長戦略に関する懇談会設置要綱により会長を互選し、副会長は会長が指名した。

会 長 竹崎委員

副会長 八尾委員

### 2 懇談会の公開・非公開について

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議の公開について委員の了解を得た。

### 3 「香川県産業成長戦略」の進捗状況、本県経済・産業の現状と課題等について 産業政策課長が資料 2、資料 3 を説明した。

#### 【委員発言要旨等】

（会長）

- ・ これから意見交換に移らせていただきたい。今回は最初の会合でもあるため、お一人ずつ、ご発言いただきたい。

（委員）

- ・ 電力会社は、スマートメーターの導入により、エネルギー効率の向上を図れるようになり、銀行ではフィンテック革命と言える状況にある。
- ・ IoT、AI、ビッグデータなど新たな ICT 時代に突入していることを身近に感じており、こうした技術への的確な対応が求められている。既存の企業競争を変え、業界構造の変化をもたらすこと。また、人工知能はビジネス環境に大変革をもたらすことが考えられる。
- ・ 農業分野においては、生産現場の業務効率化・コスト削減のみならず、スマート農業のようにサプライチェーン全体の価値の向上をもたらすことが期待される。
- ・ こうした技術は成長戦略に重要な役割を果たすと考えており、実現に向けて人材開

発・育成を含めて検討をいただきたい。

- ・ オリーブ産業では個々には非常に熱心であるが、オリーブ産業強化として集結できていないのではないかと危惧している。
- ・ 本戦略が県民全てにとって熱を持ってとらえられるような意識の醸成が必要なのではないか。

(委員)

- ・ 香川創業塾を開催し、新規創業、第二創業の支援をしている。
- ・ H27 は2回開催、H28 は1回開催し、今まで約90名が参加、その約2割が創業している。
- ・ H29 は現在実施しているが、当初20名の想定で募集したが、50名を超える方に参加いただき、創業に関心をもっている方、準備をされている方が多いことが分かった。幅広い年齢の方が参加され、うち女性は1/3であった。
- ・ 実際にどうやって創業に結び付け、事業継続、成長につなげていくかが重要であると感じている。
- ・ 今後も創業塾とともに創業後のフォローも含めた相談体制の強化や、創業者のネットワークづくり、資金面の支援等、戦略の中でも積極的に取り組む必要があると感じている。

(委員)

- ・ 産業界でのIoT、AIの重要性が高まっていると認識している。
- ・ 以前に比べ外国人観光客は増えたが、より一層増やし、宿泊数を伸ばすことも重要であるので、外国人が好みそうな夜や早朝のイベントを検討してはどうか。
- ・ 外国人観光客が高松空港から帰るときのお土産を調査し、海外向けの県産品のお土産を考えてはどうか。盆栽であればお土産の対象になるのではないかなと思う。
- ・ 海外では盆栽がブームと聞いているので、よりアピールを考えてはどうか。例えば、今年のGWにさいたま市で世界盆栽大会が開催されたが、誘致してはどうか。

(委員)

- ・ 働き方改革と言われているが、女性の就労に関する取組が大きく進まないことを懸念している。
- ・ 人口減少が進み、地方創生には女性の活躍が不可欠であるが、女性にとって働きやすい環境が整っていないのが現実である。
- ・ 県には、将来を見据えた設計図と、それを進めることが求められている。
- ・ 経済界のアピール文にもダイバーシティの推進があまり重要視されていない。
- ・ 女性の経済活動のコアとなるような場所、ソーホー(SOHO)的なものも使えるような施設をお願いしている。

- ・ 女性や子供の貧困化が進んでいる。経済界がどのように手を差し伸べ、協力していけるかを考えている。

(委員)

- ・ 瀬戸内沿いは世界的に見ても素材、原材料の競争力が高い企業が集積している一方で、川下までの波及、展開が不十分であると感じている。
- ・ 新素材に関する既存の用途だけでなく、将来の用途を先取りすることが重要である。
- ・ ニッチで頑張っている中小企業に IoT、ビッグデータ、AI 等の動向を把握してもらう必要があると思う。IoT 等を駆使することで、少量多品種の生産が当たり前となると、いろんな業種が参入しやすくなり、ニッチ企業の縮小、ひいては県の強みが発揮できなくなる可能性がある。
- ・ 熟練技術のノウハウをデジタル化するなど、攻めの IoT、AI 等の利用促進が重要である。
- ・ 就業者、県内総生産においては第 3 次産業が大きいウェイトを占めているので、この分野での生産性の向上が重要である。
- ・ 高齢化、労働者不足の中、特に医療・介護分野では四国で成功事例をつくらなければならない。

(委員)

- ・ 2022 年頃には、全国で数十万の団塊世代の経営者が引退する時期に差し掛かる。黒字経営でも後継者がいない、人材が育っていないため廃業すると答えている企業も多い。
- ・ 中小企業の廃業が進むと GDP の低下を招く可能性があり、事業承継に係るサポートが中小企業と経営者にとっての大きな課題と考える。
- ・ これまでの成長戦略の進捗状況では取組みの成果がでているが、今後、香川県がさらに成長していくための方策を考えると、人口減少やコンピュータの発達に対応できる人材がどれだけ育っているかが気になる。また、交渉能力や英語力といった海外展開ができるだけの教育・人材育成がまだ少し弱い。グローバルで戦える人材育成も一つの課題と考える。

(委員)

- ・ 観光は産業の大きな柱である。人口減少社会の中で移動人口が重要であり、地域間の競争は熾烈を極めている。
- ・ 県の観光動向調査報告では、平成 28 年は瀬戸大橋が開通した年に次いで第 2 位の数字にまで上がってきたが、観光消費額、滞在日数は前年比で減っている。観光消費額をいかに上げていくかが重要である。

- ・ インバウンドはまだ伸びると思っているが、入込客の90%を占める国内旅行が落ちている。もう一度、国内旅行に目を向けて再構築することが重要と考える。
- ・ 観光ではアクセス（空路）、プロモーション（うどん県、アート県）、コンテンツ（素材）、迎え方（おもてなし）の4つが重要であるが、リピーターを増やすためには、「おもてなし」が重要である。
- ・ コンテンツ（素材）は、新しいものの創出や、今あるもののブラッシュアップが必要である。
- ・ MICEに期待しており、イベントやコンサート、競技等を伸ばさないといけない。

（委員）

- ・ 香川県の産業構造の特徴として、香川県経済の特徴はバランス型である。いろんな環境変化に強いというのが特徴あり、香川県経済の強みだと考える。
- ・ 次に特定の産業で日本一、世界一のシェアを有する企業が驚くほど多いという印象があり、しかも様々な産業分野にそのような企業がある。これは新たなイノベーションや創意工夫のすそ野が広いと考える。
- ・ 香川県のブランドイメージは、おそらく地元の人が考えているよりインパクトは強く、うどん県やアート、特にアートは海外での反響が大きいと感じる。
- ・ 人材育成については、技術・イノベーションも重要であるが、むしろそれをビジネスにできる、マーケティングができる人材が重要だと考える。事業としては良いのに承継する人がいないとか、既存のビジネスの展開においても、ビジネスができる層が厚いと良い相乗効果が生まれるのではないかと考える。

（委員）

- ・ 香川と世界を繋ぐという観点で、前回の戦略の策定時からの環境変化を中心に述べる。
- ・ 前回との環境変化で一番大きいのは人材不足であり、全国的にも大きな課題であると考ええる。対して、他の委員から話があった女性の活用に加え、外国人の活用、例えば留学生の活用を見ても、まだまだ改善の余地はあると考える。
- ・ インバウンドは海外販路開拓と相乗効果が出る施策であり、eコマースなど、増やせる余地があると思う。
- ・ 海外販路開拓では、当戦略の4つの成果目標にも海外展開数があり、既に目標値は達成したが、まだ第一歩であると考えている。
- ・ ここ数年で海外に進出した企業はいくつかあり、今後もユニークな企業が出てくる可能性がある。
- ・ 直接輸出のメリットとして、海外の生の声が入ることのほか、付加価値が高い貿易実務や貿易英語といった仕事・雇用を地元に残すこともできるので、そういった企業を増やしていくことが重要だと感じている。

(委員)

- ・ AI、IoT、ICT への対応も重要だが、仕事と生活の充実も同じくらい重要で、ここで生活をしたい、子供を育てたいと思わせる環境整備が、ひいては産業の活性化につながるという論点も非常に重要であると考えている。
- ・ 国の未来投資戦略でソサエティ 5.0 が示されているが、どういう社会を目指すのかという価値観が分かりにくい。IoT、AI はあくまでもツールであり、どういった生き方、社会を実現するのか等を提言するようなビジョンを成長戦略で描ければと考えている。
- ・ インバウンドの量的なチャンスの中に質的な充実・価値観の実現につなげる必要がある、長い目で見て、ブームが去っても継続してもらえる、リピーターを増やすことが重要であるとする。

(副会長)

- ・ 教育でも長所を伸ばす教育と不得意をなくする教育がある。一方だけではなく、バランスが大切であると思うが、日本の教育では不得意をなくすることに重点をおかれている。むしろ長所を伸ばすことを考えてはどうかと思う。これは教育だけでなく日本の社会全体に言えることではあるが、自分の長所を見つけて伸ばすことで、大きな進歩があるのではないかと思う。
- ・ 技術については、日本の技術者は勉強熱心で、高度な技術を持っているが、世界に対して十分発揮できていないと思う。原因は評価力が不足しているからだと思う。人の評価を仰ぐ傾向があるが、外からの評価は本当に正しいのか、そのまま受け入れていいのかを、自分で判断して、自分でいいものを伸ばすことが大事である。

(会長)

- ・ 未来投資戦略 2017 の中には価値観が示されていない、何をを目指すのかがわからないという意見があったが、ソサエティ 5.0 を全部やるということが香川県にプラスになるわけではない。この中から何を求めていくのか、そのために何から手を付けるのかが、まさに次の成長戦略になると私自身は受け止めている。
- ・ 内容を整理し、また次回の会議でご意見をいただきたい。
- ・ 県知事の方から何かあれば。

(知事)

- ・ 戦略策定時との大きな違いは、AI、IoT であり、急激に社会を変える状況となった。
- ・ 囲碁や将棋で AI に名人が負けてしまうなど、ゲームの世界では AI が現実の世界となった。産業面では、自動車の自動運転の実現も近いと言われている。
- ・ これまでの取り組みとしては、香川県産業技術センターにより産業技術総合研究所の協力のもと、本県出身の東大の松尾准教授による AI の講演会を開催予定としており、ア

ドバイスも頂きたいと考えている。

- ・ メーカーの方に話を聴くと、ものづくりに AI を取り込んでいるところもあるようなので、今後はそういったことも伸ばしていく必要がある。
- ・ 観光交流面では、現在、上海便など就航して路線が充実してきているが、リピーターや、県経済に貢献するようなインバウンドを増やしていかなければいけない。
- ・ ジェトロの資料にあるよう、海外に羽ばたく県内企業が増えればと思う。
- ・ 成長戦略は、女性の活躍を含めた働き方改革、人材・人手不足の問題などに関連し、経済だけでなく多岐に渡る。福祉、厚生経済学にあるような人間の幸せ・豊かさ・生きがい、貧困の克服などは、経済の成長により実現できるのではないか。
- ・ 引き続き皆様のお知恵を拝借したいので、よろしくお願いしたい。

(会長)

- ・ 以上で終了する。事務局から今後のスケジュールについて説明する。

(事務局)

- ・ 今後のスケジュールについて説明する。
- ・ 懇談会は、今後2回程度予定している。次回は10月下旬～11月頃、3回目を来年1月下旬～2月上旬頃に予定しており、それぞれ、素案、そして最終案について、検討していただく。
- ・ 本成長戦略改定には、香川県議会の議決が必要な計画となっているため、11月議会で素案、来年の2月議会で最終案を議会に諮り、最終的な改定、公表を予定している。
- ・ 次回2回目の懇談会の開催日については、後日、各委員皆様の御都合を調整のうえ、決定させていただく。
- ・ これで第1回香川県産業成長戦略に関する懇談会を閉会する。